



みちてる 会報

2025

特定非営利活動法人NPOみちてる / 尾道市山波町2987番地 / TEL&FAX 0848-46-0951
E-mail npo2006@c.do-up.com / <http://www.npo-michiteru.jpn.org>

ご挨拶

特定非営利活動法人 NPOみちてる
理事長 安部 昭一郎



平素より当NPOみちてるに格別のご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。
また、来年の2026年には、NPOみちてるも設立20年を迎えます。ここまで活動を続けてくることが出来たのも、皆様のおかげでございます。重ねて、御礼申し上げます。

NPO設立に先んじて始めておりました『瑠璃月見茶会』も、コロナ禍で3年間開催が延期されましたが、今年で20回を迎えます。「日本の伝統文化である茶道に、子どもからお年寄りまで誰もが気軽に触れることができる場を提供したい」との願いのもと手探りのなか始めさせていただきましたが、今では尾道近郊にいられている留学生までも参加していただき日本文化に触れてもらいながら、同時にボーイスカウトとの国際交流の場にもなっており、地道に続けていくことの大切さを実感しております。

デフレからの脱却が見通せず、繰り返される増税のなか物価も上がり、それぞれの生活が厳しさを増す昨今ではございますが、「世のため人のため」の精神の灯火を消すことなく、本年も実意・丁寧にNPO活動に取り組んでまいりたいと存じます。

引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2024年度 関西福祉大学フィリピン・スタディツアー

2024年8月11日～16日

8月11日から16日の日程で関西福祉大学フィリピン・スタディツアーを昨年同様に開催させていただきました。NPOみちてるが依頼されて開催するスタディツアーは、参加者一人一人に実際に体験（チャレンジ）してもらうことで、通常の海外旅行や他団体のツアーでは得られない、NPOみちてるにしかできないツアーにしたいとの願いから、参加者にはできるかぎり参加・体験してもらうチャレンジ（企画）を用意し、特別なスタディツアーになるよう企画しています。

1日目

今年度の参加者は、大学生4人、大学職員2人を併せての6人でした。ツアーへは、当法人常任理事が日本サイドのコーディネーターとして同行しました。初日は、午後に関西国際空港を出発しマニラに到着。その後、フィリピンサイドのコーディネーター・渡辺尚美氏と合流し、参加者は初めて見る・食べるフィリピン料理を夜食に、空港からレストランまでの町並みを見て感じた感想や明日からのツアーへの期待を共有するいい時間を過ごしました。この時、すでにチャレンジ①として事前学習してきたタガログ語（現地語）を駆使して参加者それぞれ

2日目

2日目は、チャレンジ②として、「いろんなお店（町の小売店/サリサリストア、コンビニ、スーパー）で翌日訪問させてもらう家庭へのお土産を買おう」というチャレンジをしました。2チームに分かれて予算内で決められたお土産を決められた数購入しなければいけないルールがあるため、まず品物があるかどうか？また値段はいくらなのか？という会話が必要なチャレンジでしたが、それぞれ悪戦苦闘しながらもチャレンジをクリアしました。次にチャレンジ③として、現地通貨ペソへの両替体験を、チャレンジ④は、フィリピンで大人気のファストフード・ジョリビーで各自オーダーをし、昼食としました。チャレンジ⑤は、フィリピンの乗り合いバスともいえるジブニーを乗り継いで移動し現地の庶民の足を体験しました。その後、視察①としてマニラ大聖堂やイントラムロスを散策し、フィリピンの歴史を勉強することが出来ました。

challenge 2



スラムのお宅訪問



お宅訪問時のお土産

3日目



challenge 6

SRDで子どもたちに絵本の読み聞かせ

3日目は、かつてのスモーキーマウンテンのふもとに建てられたSRDコンコウキョウセンター（保育園）を訪問し、支援地域を視察②として見学しました。チャレンジ⑥は、同センターで、子ども達と折り紙やパズル、絵本を英語で読み聞かせなどをして交流したのち、チャレンジ⑦として昼食にフィリピンの家庭で食べられている家庭料理をいただきました。午後からは同センターに通っている子どもの家を3軒訪問し、それぞれの暮らしぶりについてインタビューし、チャレンジ②で購入したお土産を説明を交えながらプレゼントしました。

4日目

4日目は、フィリピン最大の卸売街のディビソリアを視察③として行い、チャレンジ⑧としてグループに分かれて英語とタガログ語を駆使し、午後から訪問する団体KSK (Kabataang Sambayanang kristiyano) での企画のために、2グループに分かれて値引き交渉をし、予算内でプレゼントを購入できるかというチャレンジを行いました。この市場は元々値段設定も卸値価格のため値引きが厳しい中、学生たちは一生懸命英語やタガログ語を使い、身振り手振りでなんとか意思疎通をし、外国人という特性を生かして2グループとも値段交渉し、チャレンジに取り組みました。その後チャレンジ⑨としてローカルのフードコートでそれぞれに味を想像しながら注文し昼食を摂りました。その後、スモーキーマウンテンの貧困家庭の子ども達を支援している団体KSKを訪問し、チャレンジ⑧で



フードコートで昼食

challenge 10



KSKのメンバーと交流

(チャレンジ⑩) しました。その後、視察④としてKSKの案内でスラム地域を実際に訪問し、そこで暮らす家族を訪ね、生活の苦勞などを聞き、質問などインタビューをさせていただきました。

challenge 11



市場での買いだし

5日目

5日目は、チャレンジ⑫として3日目に訪問してお世話になったSRDの子ども達や保護者へのお礼のカレー作りをするために、まず材料購入をチャレンジ⑪として市場で買い出し体験をしました。その後、SRDコンコウキョウセンターの厨房を借りて、参加者全員でカレーを作り、SRDの子どもや保護者にふるまいました。厨房一つとっても日本と環境の違う中、四苦八苦しながらも創意工夫してカレーを作りあげたのは誇らしかったです。SRDの子ども達や保護者もカレーを喜んでくれ、お持ち帰りのリクエストもあったくらい好評でした。この最後のチャレンジをもって2024年度のスタディツアーを締めくくりました。

challenge 12



カレーとご飯



カレー作り



カレーをおいしそうに食べてくれている子どもや保護者

2024年 関西福祉大学フィリピン・スタディツアー

参加者の感想

良かった点は2つあります。1つ目は、現地の人と関わる機会が多かったことです。特に、KSKの学生たちのためにプレゼントを買っていくミッションは素晴らしい経験でした。値引き交渉をする体験はとても楽しく、英語力が足りない中で試行錯誤しながらコミュニケーションを取ることが、自分にとって大変良い学びとなりました。2つ目は、通常であれば入ることができないスラム地区に足を踏み入れる機会を得たことです。日本にいてもスラム地区がどういう場所か情報としては知ることができますが、実際に現地を訪れて五感を使って感じることは、同じ「知っている」でも全く別の意味を持ちます。人から聞いた情報では、その人の感じ方や伝え方に影響されますが、自分自身で直接感じることで、素直に自分の感覚を通じて物事を考えることができると実感しました。このような体験は非常に意義があると思いました。

6日間過ごただけでしたが、フィリピンに行くことで日本を客観的に見ることができました。日本との違いを五感で感じられてすごく貴重な経験でした。フィリピンは日本と比べて貧富の差がすごくあると感じました。ストリートの子供達にお金やものを求められ、日本では普通に生活していてそのようなことはないのに、どう対応していいかわからず少し困惑しました。食べ物や、街並み、現地の方などから文化の違いが感じることができました。実際に幼稚園や家庭訪問など、このプログラムでなければ知ることのできないようなフィリピンのリアルを学ぶことができよかったです。また、フィリピンの医療の状況についても知りたいと思いました。このスタディツアーに参加して、自分の育った国や考え方について客観的にとらえる力が身についたと思います。私自身が今回のスタディツアーへ参加して視野が広がり、たくさん学べたからこそ、このプログラムへの参加を学生みんなに勧めたいと思います。

スラムでの食事や、ごみを集めて生計を立てている人たちの日給に驚きました。このツアーのことは、初めはスラムを支援するだけかと思っていましたが、実際に行くとスラムの街並みや街の風景、買い物の仕方、交渉の仕方話し方など色々なことを学びました。人とのコミュニケーション能力の向上や、街の仕組み、薬などがどういう風に販売されているということがわかりました。スタディツアーに参加し、思いやりや厳しさについて考えさせられました。色々な体験ができるので是非みんなにも行ってもらいたいと思いました。フィリピン・スタディツアーを振り返ると、私は6日間を通して、ずっとワクワクしていたなと思います。1日目や2日目は日本とフィリピンの違いに驚いたり、新たに気付いたりすることが多く、とても早く時間が過ぎていきました。風景や気候、音、匂いなど、いろいろなものが日本とは異なり、自分を取り囲む全てが新鮮で、とてもおもしろかったです。3日目以降は、やっと環境に慣れてきたところでしたが、自分でチャレンジしないといけなかったことが増えていきました。自分から積極的に行動することの大切さを身に沁みて感じ、私自身が成長できていることを強く感じることができました。私が1番良かったと思うのは、楽しみつつもたくさんの学びを得られたことです。買い物をするときは日本と物価を比べたり、遺跡を見るときは当時の日本とフィリピンの関係を考えてたりすることが出来ました。1日のいろいろな行動が学びにつながったので、とても楽しかったです。私はこのプログラムへの参加を学生みんなに勧めたいです。大学生のうちに何かやっておきたい人や、知的好奇心が旺盛な人などは、特に参加してみて欲しいなと思います。この経験は自分の将来を考える上でも参考になるとし、何より自分の視野を広げることができると思います。学校やバイトなどであまり変化のない日常に退屈している人ほど、この機会に行動してみて欲しいなと思います。

第19回瑠璃茶会報告 2024年10月27日(日)

今回無事に瑠璃茶会が開催できましたことは一入の感が有ります。

今まで率いて下さっていた前理事の野宗先生がいらっしゃらない初めてのお茶会でしたし、年初からの災害や巷のウイルス感染流行等多くの不安材料の上に当日は雨模様という予報でしたので。

しかし、おかげをもちまして予定以上の多くの方にお通り頂き、お茶会最後の席の終了まで雨が落ちませんでした事、皆様のご協力に感謝申し上げます。

その間、留学生とそのお世話をされる方々やボーイスカウトとの国際交流、楽の体験コーナーなど瑠璃茶会ならではのプログラムが有り、楽しんでいただけたのではと思います。

今後も点心やお茶席以外でも親しんでいただけるように、広い世代に開かれたお茶会にしたいと思います。また、早くから活動を開始する会員もいて、各担当会員の有形無形の尽力により準備も整い、当日も御来場下さる方のスムーズな誘導と接待により盛会裏に終える事が出来ました。

今年も、会員一同新たな気持ちで臨み、山波のお庭で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。何卒よろしくお願い致します。



■ みちてる・ミュージック・ソサイエティ(MMS)

みちてる・ミュージック・ソサイエティは、小学生から70代まで幅広いメンバーが集い、現在は月2回(時には月4回)、日曜日の夕方がメインの練習時間で活動しています。

昨年の活動は、年頭の“感謝の集い”でのステージ演奏に始まり、6月大阪での音楽祭にコーラス・ソサイエティの皆さんと一緒に参加させていただき、主催のOTO倶楽部の皆様との合同演奏で非常に感慨深く、そしてありがたい体験をさせていただきました。

8月には、金光スカウト100周年の記念パレード参加という、今までやったことの無いマーチング演奏にもチャレンジしました。

真夏の暑い時期ではありましたが、誰一人欠けることなく元気で楽しく参加させていただきました。(こちらのパレードも大阪のOTO倶楽部の皆様との合同演奏で、ぶっつけ本番という究極状態を快諾いただきありがとうございました。)

後半は、若い力を育てる意味で、ボーイスカウトの集会に演奏指導参加することを始めました。

今後も「元気で楽しく」をモットーに、新人発掘、個々人のスキルアップ等々、充実した活動をしてまいりたいと思います。

多数のご参加をお待ちしております。





■ スターライトクラブ(S.L.C)

2024年は、コロナウイルス感染症が5類に移行し、社会経済活動も以前の状態に戻りつつありましたので、訪問先の思いも確認して施設訪問を実施することができました。スターライトクラブだけでなく、コーラス・ソサエティや長寿クラブ、個人で舞踊などの参加を得て披露することができました。私達は「マツケンサンバ」を踊りました。皆さんそれぞれがパフォーマンスを発揮され盛り上がったものになり、施設の利用者の方々に喜んでいただけたと思っています。

今後も皆さんの協力を仰ぎながら施設訪問を実施したいと考えています。皆様の参加をお待ちしています。



施設訪問



■ みちてる・コーラス・ソサイエティ(MCS)

みちてる・コーラス・ソサイエティは、元気いっぱいの体操・発声練習（笑い声）から始まります。2024年も10代～90代のメンバーが集い、30回の練習と9回の合唱発表を行ってまいりました。

6月、二度目の参加となる大阪での音楽祭では、「それが大事」「ザ・ローズ」の二曲を合唱で発表し、三曲目に、ミュージック・ソサイエティの方の伴奏で「ありがとうの花」の大演奏を聴いて頂きました。可愛い子どもたちの歌声と会場の皆さんの応援も頂き、楽しい雰囲気が玉水記念会館のホールに広がっていきました。

また、コロナ禍で自粛していた施設訪問も再開し、スターライトの方々と共に地域で活動を広げることが出来ました。「負けないこと♪投げ出さないこと♪逃げ出さないこと♪信じぬくこと♪」…それが大事と伝えたり、「365日の紙飛行機」の歌の終わりにメッセージを書いた紙飛行機を飛ばしたりして、私たちの想いも伝えました。利用者さんは「旗揚げゲーム」のように共に活動したい方が多いので、体全体で表現しながら一緒に歌える曲も準備して、もっと楽しんで頂けるよう工夫したいと考えています。

今後も、毎月8日、16日、26日に「笑顔」を合言葉に集まり、歌を響かせてレパートリーを増やしてまいります。ご都合の付く方はお越しください。一緒に歌い笑いましょう♪



2024年 練習曲目

- ・それが大事 ・ザ・ローズ ・ありがとうの花 ・365日の紙飛行機 ・鬼のパンツ
- ・フニクリフニクラ ・今天地の開ける音を聞いて目をさませ ・いつでも夢を
- ・ひかりと慈しみの中で ・見上げてごらん夜の星を ・金光さま ・うたごえは心をつなぐ
- ・ふるさと ・にんげんっていいな